[現代社会学部紀要　18巻１号, P75－80（2019）（一般論文）]

長崎県病弱教育研究（第３報）*
－特別支援学校（病弱）Ｙ校の指導法の改善に関する一考察－

菅　達也**、平田　勝政***

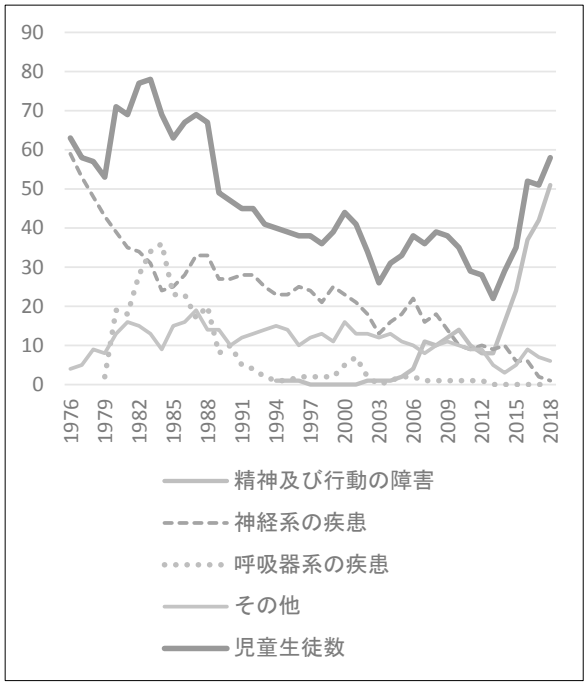
A Study of Education for Children with Health Impairment in Nagasaki Prefecture (third report): Focusing on Reform of Teaching Method in Special Needs Educational School for Children with Health Impairment

Tatsuya SUGA**, Katsumasa HIRATA***

１　目的と方法

筆者らは長崎県の病弱教育の歴史・現状・成果・課題を明確化するために、病弱特別支援学校の中心校であるＸ校とＹ校について両校の学校要覧を手がかりにその基本的特徴を整理・検討した[1)]。

その結果、近年のＹ校において起因疾患に著しい変化があり、2014（平成26）年度より「精神及び行動の障害」がある児童生徒が急増していることが明らかとなった。（図表１参照）



（図表１）Ｙ校の児童生徒数と起因疾患の推移

特に高等部では、心身症などの精神疾患のある生徒がほとんどであり、欠席や欠課による学習空白、集中力の持続が困難、不安感や劣等感、衝動の抑制が困難、緘黙など学習面で多くの課題を抱えている実態があることが判明した。

そこで本研究（第３報）では、Ｙ校の高等部に注目して起因疾患の変化（精神疾患の急増）に対応した指導法改善の取り組みとその成果・課題について整理・検討を行っていきたい。より具体的に言えば、Ｙ校では2016（平成28）年度より、各教科において「児童生徒の学習意欲を高めるための授業改善」に取り組んできている[2)]。中でも地理歴史・公民科（以下、地歴・公民科と略記）は、今回の学習指導要領の改訂で公民科の「現代社会」にかわって新たに「公共」が設けられるなど、大きく様変わりをすることから、新学習指導要領のポイントである「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に取り組み、移行に向けた準備・研究を行っている。本研究では地歴・公民科における指導法の改善に焦点をあて、その成果と課題をまとめていく。

２　地歴・公民科における実践研究の履歴

地歴・公民科は、2016（平成28）・2017（平成29）年度に、生徒の興味・関心を引き出す実践の工夫を以下のようにまとめている。

① 発問の工夫

生徒への学習の動機づけとして、授業の導入で効果的な発問をする。発問は【既習知識】【様子・状態】【思考】【理由】に分類している。

（例）現代社会「日本国憲法の人権保障－社会権」
【既習知識】社会権で知っていることはありますか。
【様子・状態】人権問題にはどんなものがありますか。
【思考】教育を受ける権利と教育を受けさせる義務の違いは何ですか。
【理由】公務員に労働三権が制限されているのはなぜですか。

* Received October 1, 2019
** 長崎県立桜が丘特別支援学校教諭　Teacher of School for Children with Health Impairment
*** 長崎ウエスレヤン大学現代社会学部社会福祉学科 Faculty of Contemporary Social Studies, Nagasaki Wesleyan University, 1212-1 Nishieida, Isahaya, Nagasaki 854-0082, Japan

② 視聴覚教材などの活用

視聴覚教材などには【動画】【画像】【図書】があり、ＩＣＴ機器である大型テレビ、iPad、実物投影機、パワーポイント、電子黒板などを目的に応じて使い分けている。ＩＣＴ機器の活用により、言葉だけでは分かりにくい学習内容が理解でき、図表などの資料の提示で生徒の学習意欲が引き出されている。

③ 自ら調べる力を養う工夫

生徒が自ら主体的に学習活動に参加できるように「調べ学習」を検討し、結果、「調べ学習」は難易度の低い順から以下のように分類している。

【空欄補充法】教科書を見て解ける穴埋めプリントに取り組ませる。
【図表提示法】図、表等の資料を見て、何を表しているか推測して調べさせる。
【資料回答法】資料（図書、新聞等）を配布し、教師の質問の回答をその資料から探させる。
【選択肢提示法】発問について、回答用の選択肢をいくつか用意し、自分が正しいと思う選択肢について、それを実証するという形式で調べ学習をさせる。
【項目提示法】テーマだけでなく、関連する観点も与え調べさせる。
【ＫＪ法】１つのテーマをもとに、調べた内容を付箋に書き込み、考えを整理させる。
【テーマ法】生徒に現在身近な問題や将来必要になる事柄について、解決方法を探らせる中で法律等を学ばせる。

３　地歴・公民科の授業改善

Ｙ校は、高等部１年で「現代社会」、高等部２年で「世界史Ａ」、高等部３年で「日本史Ａ」を履修し、授業では教科書の内容を整理したプリント（空欄補充法により重要語句を空欄にする）を配布して、実物投影機やパワーポイントによって写真や絵、図表などを大型モニターに写すことで、生徒に興味や関心を持たせて、学習の理解が進むような取り組みを行っている。そして、地歴・公民科では、2018（平成30）から2019（令和元）年度にかけて「主体的な学び」「対話的な学び」に視点を置いた授業実践を展開している。

（１）生徒の実態

適応障害、社会不安症、選択性緘黙、ＬＤ、起立性調節障害、解離性障害、不安抑鬱障害など。

（２）「主体的な学び」～「現代社会」の例

①「調べ学習」の方法・内容

「現代社会」では、生徒による「主体的な学び」ができるように「調べ学習」の改善を行っている。「調べ学習」は、生徒が調べた内容をそのまま複写したり、教師の想定以上に時間がかかったりするという問題点があった。そこで、図表２に見るように、「調べ学習」を夏休み・冬休みの課題として、また、比較的時間のある２学期に実施するような授業計画が立案された。内容は授業に関連する事柄をテーマとして取り上げ、生徒には図書室にある本やインターネットなど、自分に合ったやり方で学習に取り組ませ、学習の最後には発表する場（プレゼンテーションなど）が設けられてある。対象となる高等部１年生は、初めて「調べ学習」に取り組むこととなった。

（図表２）調べ学習の計画・内容

指導計画・内容
（１学期の学習） 「はたらくこと、社会とかかわること」 ・はたらくことの意味　・職業の選択にあたって ・はたらくこととジェンダー　・共生社会に向けて
（夏休み） 「災害とボランティア」 ・どんな災害があるか ・長崎県で過去に起こった災害 ・自分の住む地域で起こりうる災害、その時の対応は ・もしもの…リュックサック（避難時の準備品） ・ボランティアについて考える ・新聞記事で学んだこと、感想
（２学期の学習） ＜プレゼンテーション＞　２時間 「基本的人権の保障」（教科書：１時間） ・世界人権宣言、国際人権規約から１つ （個人での学習）１時間 ・人種差別撤廃条約、女性差別撤廃条約、死刑廃止条約、子どもの権利条約から１つ （グループでの学習）１時間 ＜プレゼンテーション＞　２時間
（冬休み） 政治・経済・社会 ・国内の政治・経済・社会のニュース ・スポーツニュース ・国際ニュース（海外で起こっていること）
（３学期の学習） 「現代社会新聞」発行

②「調べ学習」の実際

１学期は共生社会について学習している。この年は６月から７月にかけて大阪北部地震や西日本豪雨などが起こり、生徒は多少なりとも災害を身近に感じていた。それに関連して「災害とボランティア」をテーマにした調べ学習が夏休みの課題となった。内容はテーマが細分化され、災害の種類（空欄補充法）、長崎県で過去に起こった災害や居住する町で今後起こりうる災害（項目提示

法)、避難時の持ち出し品（選択肢提示法)、新聞の災害記事を読んでの感想や学習を通して学んだこと（資料回答法）といった様々なスタイルの調べ方にチャレンジさせている。生徒は課題の取り組みで分からないところを質問したり、図書室にある本を借りたり、インターネットで調べたりして学習を行っていた。また、自分が居住する地域の地理的条件やハザードマップにより起こりうる災害と避難時の持ち出し品など、家族で災害や防災について話し合った生徒もいた。

２学期の最初の授業は、生徒が夏休みに学習したことを発表する時間（プレゼンテーション）に当てられた。以下は、その時の生徒の特徴的な記録である。

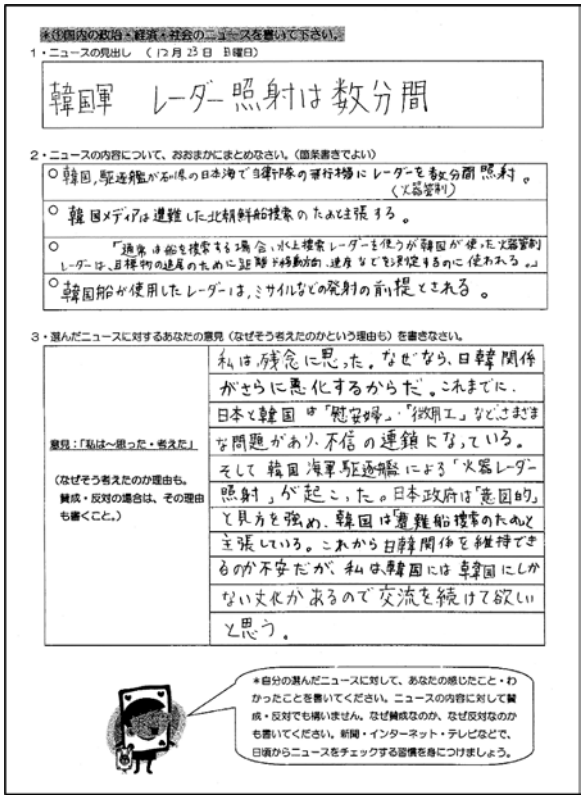
- 日頃は話すことが苦手な生徒や人前に出るのが苦手な生徒も演台で、あるいは自分の席で発表することができた。
- 調べはしたがまとめることが苦手だったり、逆に紙面一杯に書いたり、また、感想や意見も様々だったが、生徒全員が発表することができた。
- １学期は登校が困難だった生徒も、出身地の水害について詳しく調べ、川祭りはその慰霊のために行われることや自分が生まれる前のことを知り、復興に頑張った人のおかげで今の自分たちがいるという感想を持つことができた。
- 発表を視聴する生徒も友達の発表を熱心に聞いていた。

高等部１年生は、初めての「調べ学習」で、内容のまとめ方には個人差もあったが、全員が課題に取り組み、プレゼンテーションに参加することができていた。

２学期は「基本的人権の保障」を学習した際に調べ学習を行っている。個人での学習とグループでの学習を行い、生徒は選択したテーマについて、前回同様に自分に適したメディアを使って調べていたが、一つのメディアだけでなく、調べる手段を変えるなどの工夫もできるようになっていた。グループ学習では役割分担を生徒に決めさせ、グループ内で協力して学習が進められた。あるグループでは、学習も発表も消極的な生徒が、友達と一緒に協力し合う中で、グループを代表してプレゼンテーションを行った結果、大きな自信をつけることができたという。しかし、情報は集めたが、新たな疑問や発見、感想などが全体的に乏しかったことが教師側の反省としてあげられていた。

冬休みの課題は、現代社会の１年間のまとめとして、国内ニュースから政治・経済・社会の各分野、スポーツ、国際関係で興味・関心のあるものを調べさせていた。その際、テーマはニュースの見出しに注目させ、２学期の反省から、結論の整理として「私は～思った・考えた」という感想・意見を記入させるようにしていた。資料１に見るように、生徒Ａは時事問題の中で最も関心のあるものを取り上げ、事実をきちんと整理し、調べながら考えたことや思ったことを自分の言葉でまとめることができていた。他の生徒たちも記述量の違いはあるが、それぞれに調べた情報に対する自分の意見や感想を書けていた。調べたことの発表については、プレゼンテーションをする時間が取れなかったことから「現代社会新聞」（資料２参照）に掲載して誌上での発表となっていた。このような形でフィードバックすることで、生徒は友達が書いた記事にも関心を持ち、何より自分の書いた文章を見て満足感が得られた表情をしていたということである。

（資料１）生徒Ａの調べ学習


＊(1)国内の政治・経済・社会のニュースを書いて下さい。

1・ニュースの見出し　（12月23日　日曜日）

韓国軍　レーダー照射は数分間

2・ニュースの内容について、おおまかにまとめなさい。（箇条書きでよい）

○韓国、駆逐艦が石川県の日本海で自衛隊の哨戒機にレーダーを数分間照射。（火器管制）

○韓国メディアは遭難した北朝鮮船捜索のためと主張する。

○「通常は船を捜索する場合、水上捜索レーダーを使うが韓国が使った火器管制レーダーは、目標物の速度のために距離や移動方向、速度などを決定するのに使われる。」

○韓国船が使用したレーダーは、ミサイルなどの発射の前提とされる。

3・選んだニュースに対するあなたの意見（なぜそう考えたのかという理由も）を書きなさい。

意見：「私は～思った・考えた」

（なぜそう考えたのか理由も。賛成・反対の場合は、その理由も書くこと。）

私は残念に思った。なぜなら、日韓関係がさらに悪化するからだ。これまでに、日本と韓国は「慰安婦」、「徴用工」などさまざまな問題があり、不信の連鎖になっている。そして韓国海軍駆逐艦による「火器レーダー照射」が起こった。日本政府は「意図的」と見方を強め、韓国は「遭難船捜索のためと主張している。これから日韓関係を維持できるのか不安だが、私は韓国にしかない文化があるので交流を続けて欲しいと思う。

＊自分の選んだニュースに対して、あなたの感じたこと・わかったことを書いてください。ニュースの内容に対して賛成・反対でも構いません。なぜ賛成なのか、なぜ反対なのかも書いてください。新聞・インターネット・テレビなどで、日頃からニュースをチェックする習慣を身につけましょう。

（資料２）現代社会新聞

現代社会新聞

大間のマグロ　過去最高値３億3360万円

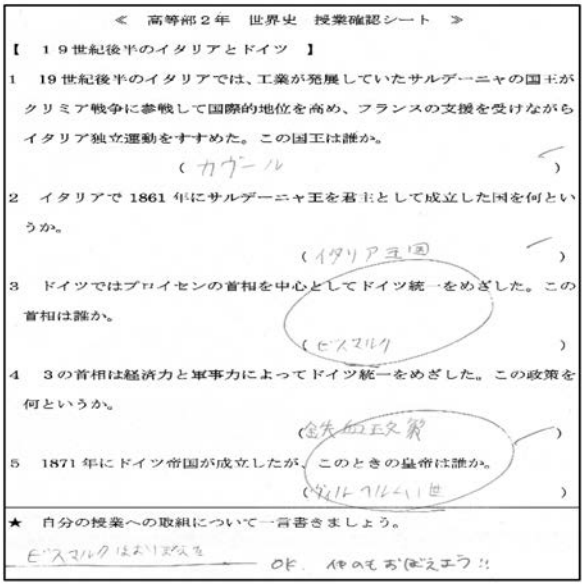
豊洲市場で初の初競り

韓国軍　レーダー照射は数分間

熊本・和水で震度6弱

ひき逃げで男逮捕

（資料３）授業確認シート


＜　高等部２年　世界史　授業確認シート　＞

【　１９世紀後半のイタリアとドイツ　】

1　19世紀後半のイタリアでは、工業が発展していたサルデーニャの国王がクリミア戦争に参戦して国際的地位を高め、フランスの支援を受けながらイタリア独立運動をすすめた。この国王は誰か。

（カヴール　）

2　イタリアで 1861 年にサルデーニャ王を君主として成立した国を何というか。

（イタリア王国　）

3　ドイツではプロイセンの首相を中心としてドイツ統一をめざした。この首相は誰か。

（ビスマルク　）

4　３の首相は経済力と軍事力によってドイツ統一をめざした。この政策を何というか。

（鉄血政策　）

5　1871 年にドイツ帝国が成立したが、このときの皇帝は誰か。

（ヴィルヘルム１世　）

★　自分の授業への取組について一言書きましょう。

ビスマルクはおりまくを　OK　イやのもおぼえよう!!

（資料４）授業確認シートチェック表

名前 [redacted]

世界史　授業確認シートチェック表

日にち	授業内容	①	②	③	④	⑤	ひとこと
6/20	東南アジアの風土	●	●	●	●		特にない
6/25	東南アジア世界の成立	●					分からん
7/2	東南アジア諸国家の発展						覚えるのきつい
7/4	西アジア(地中海)	●					覚えるのきついです
7/18	西アジア②	●					分かんねえ
9/5	オリエント世界の統一2	●	●				覚えられるのかな
9/10	地中海世界の形成①						
9/12	地中海世界の形成②	●					カタカナせーー
9/18	西アジア③	●	●	●	●	●	うれしい
10/1	イスラム教	●	●				
10/3	ヨーロッパの形成						がんばる
3/11	ヨーロッパでの戦争	●	●				アクシュヴィッツ
3/13	国際連合と冷戦	●					ユネスコ
3/15	多極化する世界と冷戦の終結	●	●	●			レーガン
3/12	冷戦後の世界	●	●	●	●		EU
3/19	21世紀の世界	●	●	●	●	●	さいごのさいごでがんばる

（３）「対話的な学び」～「世界史Ａ」「日本史Ａ」の例

① 歴史学習の課題

特別支援学校の生徒に限らず、歴史学習では、歴史の流れをつかむこと、歴史用語を覚えることを苦手とする生徒が多い。Ｙ校では「世界史Ａ」と「日本史Ａ」が履修されているが、歴史の因果関係を理解させるために、前述したようなＩＣＴ機器などがフル活用されている。そして、さらに知識を定着させる目的で授業の終盤に毎回「振り返りシート」を活用している。これは、教師との「対話的な学び」といえるものである。

②「振り返りシート」の活用の実際

「世界史Ａ」と「日本史Ａ」では「振り返りシート」である「授業確認シート」と「授業確認シートチェック表」を作成し、授業で活用している。授業の「導入－展開－まとめ」における「まとめ」の部分で、生徒は「授業確認シート」（資料３参照）の一問一答で学習のキーワードを確認し、学習への取り組みを自己評価する。そして、その成果を可視化するために、「授業確認シートチェック表」（資料４参照）を同時につけている。

資料３、資料４は、生徒Ｂによるものである。生徒Ｂは、地理的事象については関心があるが、歴史が苦手で、高等部２年になり「世界史Ａ」がはじまったときには授業中は一言も発せず、配られたプリントも空白のままで表情も硬かったという。授業の最後に行う「授業確認シート」には、覚えてほしい歴史用語を５つ厳選してあるが、生徒Ｂはシートの自己評価欄や「授業確認シートチェック表」の「ひとこと」欄に「分からない」、「覚えられない」と常時記入しており、担当教師はその都度アドバイスをしたり、励ましの言葉をかけたりした。生徒Ｂも少しずつ授業に関心を持つようになり、９月後半には「授業確認シート」の一問一答を初めて全問正解することができた。「ひとこと」欄には「うれしい」と素直に書かれており、教師は「パーフェクト、おめでとう」と応じている。これ以後、生徒Ｂはたとえ一問一答が答えられなくても「がんばる」と前向きな言葉を記し、間違えた用語や印象に残った用語などを「ひとこと」欄に書くようになっていた。そして「世界史Ａ」の最終回の授業では、再び一問一答を全問正解し「さいごのさいごでやったね」と書いている。

また、他の生徒にも変化が見られ、例えば場面緘黙の生徒は「授業確認シート」の自己評価欄に「今日の授業はよく分かった」とか「黒板の字が見えにくかった」など、通常の学習活動では決して伝えることができない自分の気持ちを表現できるようになり、シートを通して教師との会話が少しずつできるようになっていった。授業のときに質問や意見を述べることが難しい生徒も、質問をシートに毎回記入するようになり、教師もそれに対する答えを丁寧にシートに書き込んだり、次の授業での補足説明に活用したりするなど、生徒とのやりとりも活発になっていった。

「授業確認シート」と「授業確認シートチェック表」が定着していくと、生徒たちは授業への取り組み方についても集中して話を聞き、学習への意欲が向上するなどの変容が見られていた。そして「世界史Ａ」「日本史Ａ」のアンケートでは、「歴史が好きになった」、「授業が分かるようになった」、「テストで点数が取れるようになった」という意見が多くの生徒から寄せられていた。

４　結果と考察

「現代社会」の「調べ学習」では、社会問題や時事問題が生徒の興味・関心を引いた。学習に関して教師の意図が伝わらないこともあるが、教材の提示に修正を加えるなど、教師の柔軟な対応がそこには求められる。病弱特別支援学校でのアクティブ・ラーニングは時間の工夫と適切な支援があれば、精神疾患のある生徒たちも主体的に学習することができた。そして、課題をまとめあげることで、それが自信となり、自信が不安を軽減し、最後は発表にまで至った。生徒が自らの力で学習を進めていく過程そのものが生徒の自主性を育てることとなり、プレゼンテーションで自分が調べたことや感想・意見を述べ、その場にいる人たちから称賛されたり、認められたりすることで、「調べ学習」に取り組んだ生徒の多くが自己肯定感を高めることができたといえる。

「世界史Ａ」と「日本史Ａ」における「振り返りシート」の活用では、生徒が学習した知識の定着を図るだけでなく、生徒自身が授業に対する取り組み方を評価し、授業中に生じた疑問や意見を表現するようになった。また、緘黙などの障害特性により発言しにくい生徒が、その時に何を思ったか、何を言いたかったかという「心の声」に触れることができ、シートを通しての会話へと深められていった。教師側にとっての「振り返りシート」は、授業内容に対する生徒の理解度を確認するだけでなく、生徒から出た疑問や意見をもとに授業を組み立てることにも役立っていた。そして、何より生徒と教師の間の信頼関係を「振り返りシート」を通して築いていくことになった。これは精神疾患のある生徒を支援していく上で大切なことで、基本となるものである。

現行の「現代社会」は、人間としての在り方・生き方について考察する力を養ってきたが、新教育課程の「公共」は、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせることから、社会に対する生徒の主体性・積極性が新たに求められるようになる。また、新教育課程の「歴史総合」は「世界史Ａ」と「日本史Ａ」を融合させたものと捉えられているが、知識を基に主題を設定し、考察、表現して理解させるようになっている。

新学習指導要領では、学習方法の手立てについて「主体的・対話的で深い学び」の実現、すなわちアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を求めている。病弱特別支援学校Ｙ校の地歴・公民科では、それらを先行して「調べ学習」を改善したり、「振り返りシート」を活用したりした教育実践で成果が得られ、新教育課程の一つの授業モデルを示したと言えよう。今後さらに研究・改

善されていくであろうが、生徒を中心に考えた授業づくりこそが成功の一番の要因であったといえよう。新教育課程の実施まで、必修・選択科目のカリキュラム構成[3)]など、様々な課題もあるが、円滑に移行・実施されることを期待したい。

〈　註　〉

１）その研究成果は、下記のとおりである。

①近藤友美･平田勝政:長崎県病弱教育研究（第１報）－特別支援学校（病弱）Ｘ校の検討を中心に－「長崎大学教育学部教育実践研究紀要」第18号，157～166頁，2019年３月

②菅達也・平田勝政：長崎県病弱教育研究（第２報）－特別支援学校（病弱）Ｙ校の検討を中心に－「長崎大学教育学部教育実践研究紀要」第18号，167～180頁，2019年３月

２）Ｙ校は、平成28～29年度に長崎県教育委員会のＩＣＴ教育研究指定を受け、平成29・30年度は「授業改善を目指した教科指導力の向上～ＩＣＴ機器の効果的な活用を通して～」というテーマで研究に取り組み、各年度ごとに「研究集録」を発行している。本研究でも参考・引用した。

３）高等学校新教育課程（2022年度～）における地理歴史の科目は「地理総合」(２単位･必修)、「地理探求」(３単位・選択)、「歴史総合」(２単位・必修)、「世界史探求」(３単位・選択)、「日本史探求」(３単位・選択)、公民の科目は「公共」(２単位・必修)、「倫理」(２単位・選択)、「政治・経済」(２単位・選択）となっている。

(付記)

本研究の執筆にあたっては、特別支援学校（病弱）Ｙ校の地歴・公民科（稲垣友里教諭ら）の協力をいただきました。記して感謝をいたします。